



訪日外国人消費動向調査 平成23年1-3月期 詳細分析

平成23年5月31日

観光庁参事官室(観光経済担当)

(1)調査対象者

日本を出国する訪日外国人

ただし、1年以上の滞在者、「永住者」「日本人の配偶者」「永住者の配偶者」「定住者」など日本に居住している人、日本に入国しないトランジット客、乗員を除く。

(2)調査場所

全国の主要空海港(10箇所)の国際線ターミナル搭乗待合ロビー

※調査空港

新千歳空港、仙台空港、成田空港、羽田空港、中部国際空港、関西空港、広島空港、福岡空港、那覇空港、博多港
注) 今期は新潟空港での調査を実施していない(調査対象便運休のため)

(3)調査時期

平成23年1月20日(木)～2月15日(火)

(4)調査方法

多言語対応のタッチパネル式PC、または10言語の調査票を用い、
外国語調査員による聞き取り調査を実施

※調査言語

英語、韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、タイ語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語

(5)調査標本数

6,649サンプル

本調査結果を利用する上での注意

本調査結果は平成23年1-3期の数値であるが、調査期間は平成23年1月20日～2月15日であり、東日本大震災（平成23年3月11日）以降の期間は含まれていない。

したがって、今期数値の活用にあたっては、以下の点に留意されたい。

◆本調査結果から直接得られる国籍別の数値（旅行内容の構成比や旅行消費単価など）には、東日本大震災の影響は含まれない。

◆ただし、全国籍の数値は日本政府観光局（J N T O）公表の平成23年1～3月の「訪日外客数」を用いて国籍別のウェイトバック処理を行っている。そのため、この処理に用いた国籍別訪日外客数構成比には、東日本大震災の影響が含まれている点に留意されたい。

◆なお、旅行消費総額の推計値は、本調査で得られた旅行消費単価にJ N T O「訪日外客数」を乗じることによって算出している。前者（旅行消費単価）には東日本大震災の影響は含まれないが、後者（訪日外客数）には同影響が含まれる。

平成23年1-3月期

【トピックス1】

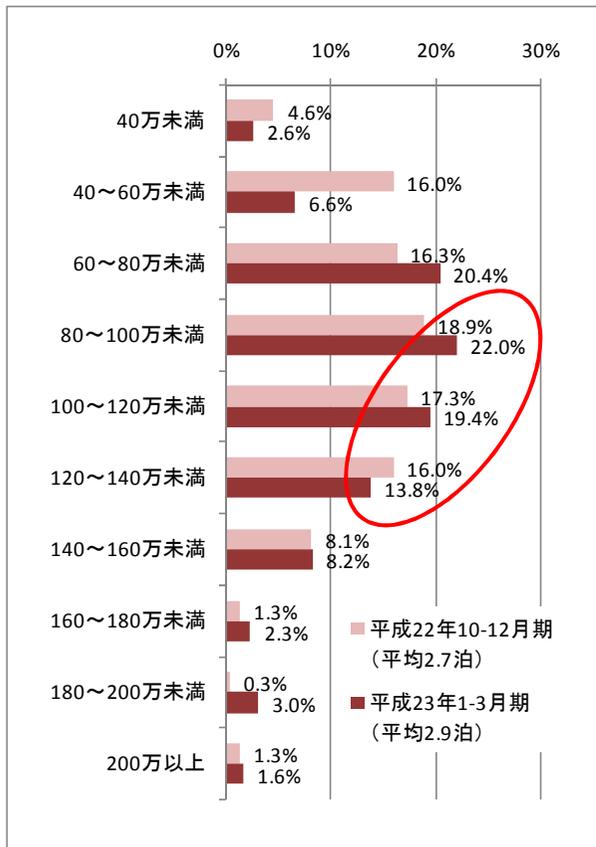
今期のパッケージツアー価格 ～春節期のツアー価格変動

春節を含む1-3月期は、近隣アジア発の観光ツアー価格が上昇

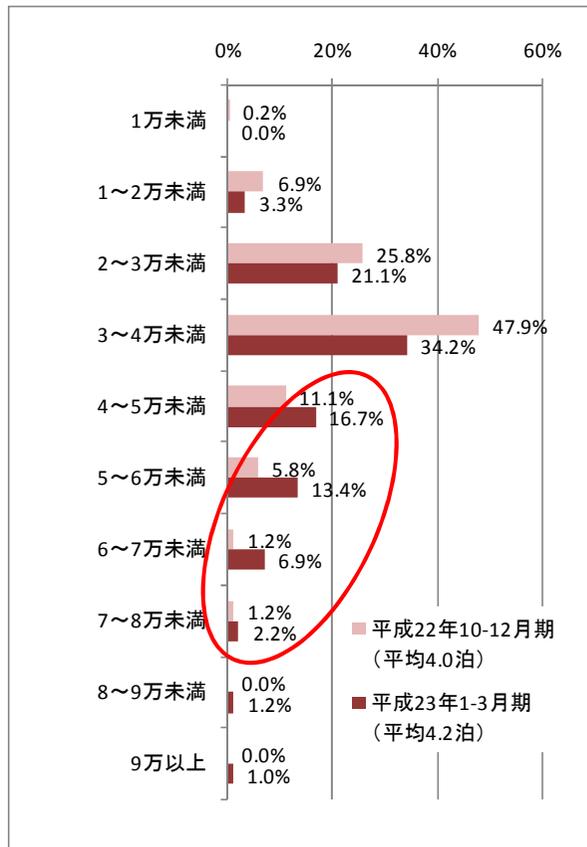
- 平成23年1-3月期の近隣アジア3カ国の訪日観光パッケージツアー価格は、前期に比べ高価格帯の割合が高い。
- これら3カ国からのツアー観光客の平均泊数も、前期に比べて若干高くなっている。

図表1-1. 近隣アジア発の訪日観光パッケージツアー価格分布

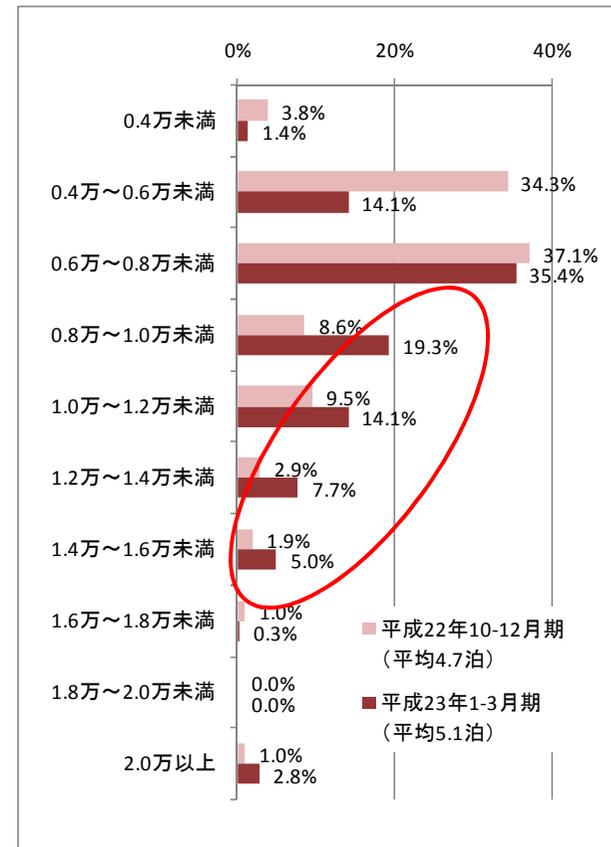
a. 韓国発（通貨：ウォン）



b. 台湾発（通貨：台湾ドル）



c. 中国発（通貨：人民元）



注) 上記グラフは、各国居住者かつ観光・レジャー目的来訪者かつ発地国通貨建てのパッケージツアーを利用した回答者を抽出して集計したもの。

【春節期ツアー価格】韓国発は1/31～2/2がピークでその後減少

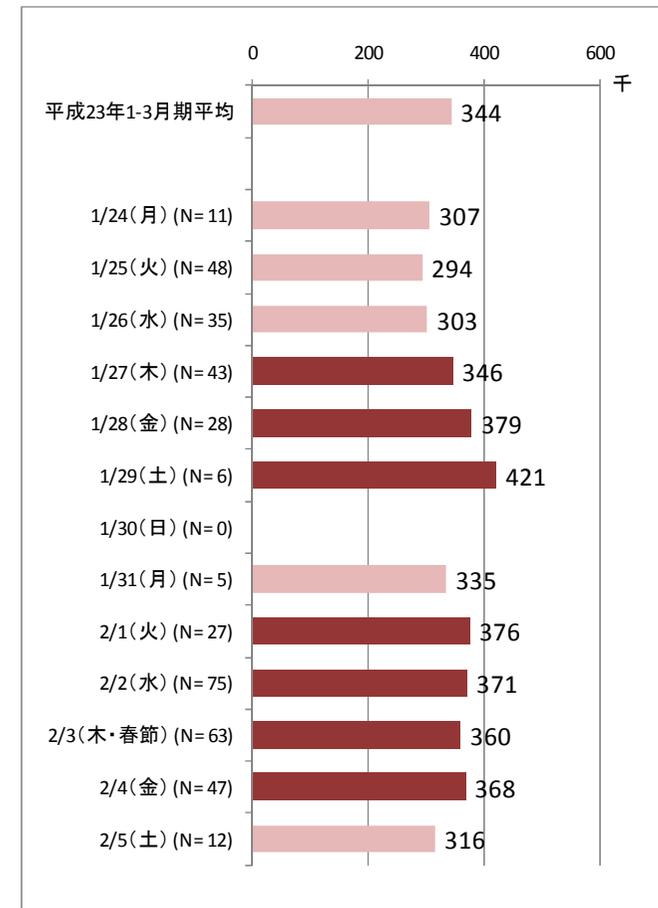
- 春節(2/3)前の3日間(1/31～2/2)に出国するツアーの日別平均価格が**100万ウォン以上**と高い。
- 春節後3日間(2/3～5)は徐々にツアー平均価格が下がるが、これは平均泊数の減少が主因とみられる。
- 1泊あたりのツアー日別平均価格をみると、春節前後(2/1～4)は期中平均価格に比べ5～10%程度高い。

図表1-2. 春節期の訪日観光パッケージツアー価格【韓国発】

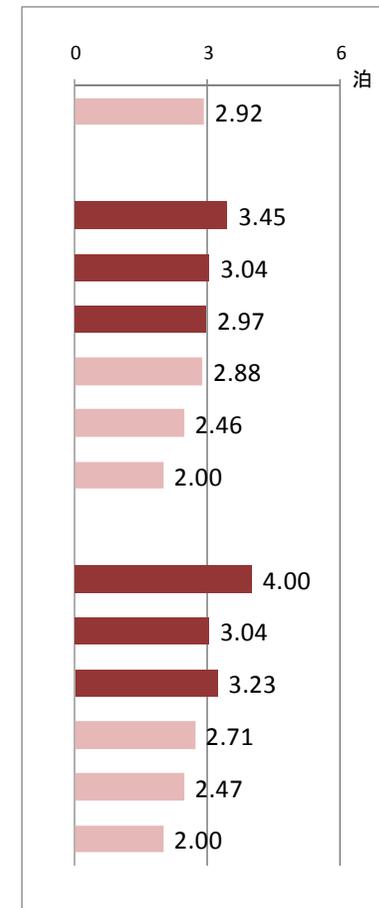
a. パッケージツアー日別平均価格



b. 1泊あたりツアー日別平均価格



c. 日別平均泊数



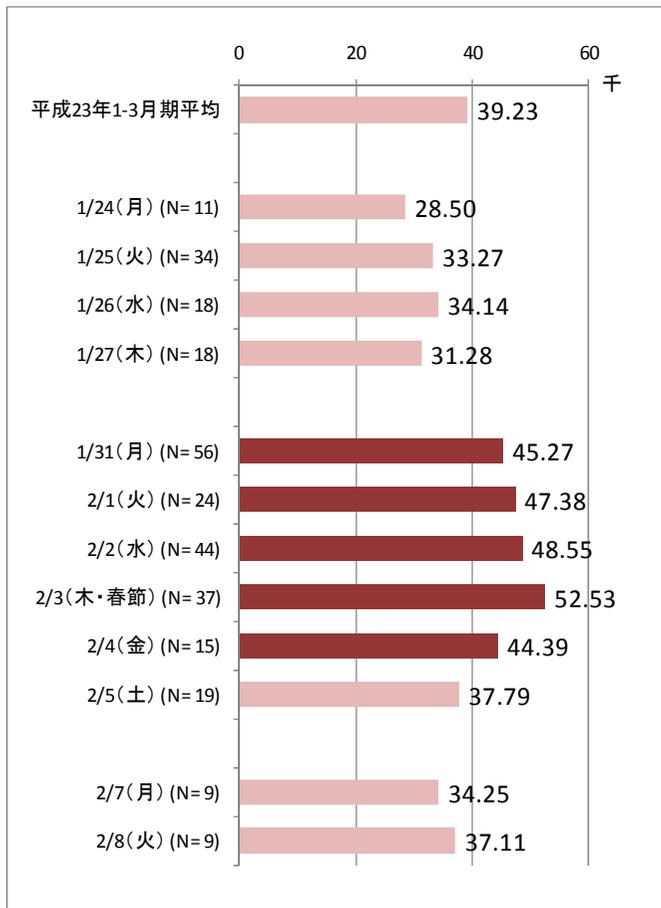
注1) 上記グラフは、韓国居住者かつ観光・レジャー目的来訪者かつパッケージツアーを利用した回答者を抽出して集計したもの。価格の単位は韓国ウォン。
 注2) 上記グラフ中、赤色の棒グラフは平成23年1-3月期の平均より高いことを示す。なお、縦軸の日付は入国日であり、カッコ内のNはサンプル数である。

【春節期ツアー価格】台湾発は1/31～2/4がピーク、泊数は一定

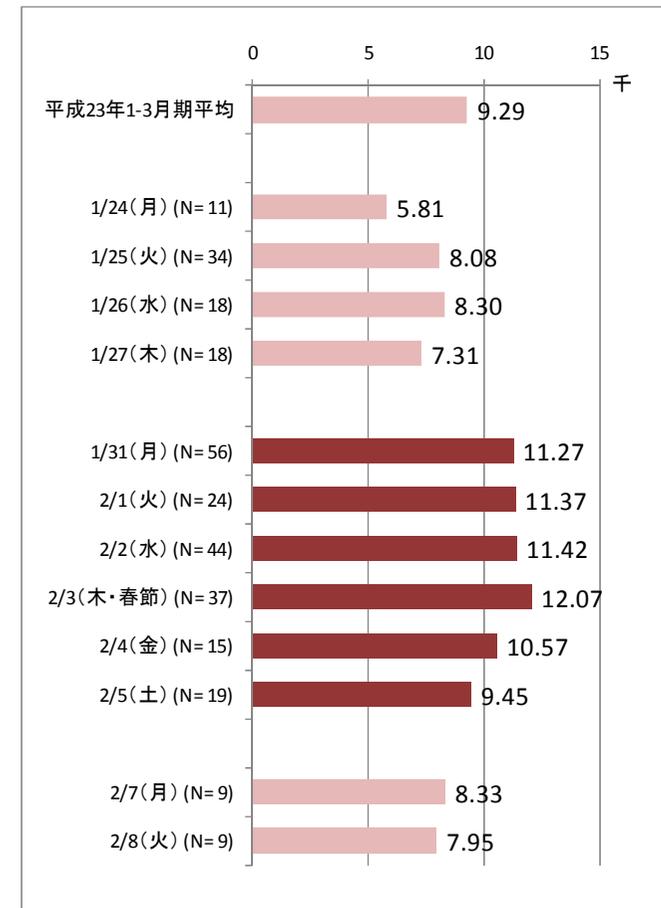
- 1/31から2/4に日本に入国するツアーの日別平均価格が**4万台湾ドル以上**と高い。
- 1泊あたりのツアー日別平均価格も1/31から2/4までは**1万台湾ドル以上**であり、期中平均に比べ**2割**前後高い。
- 春節期前後の日別平均泊数は4泊前後で、入国日による大きな変化はみられない。

図表1-3. 春節期の訪日観光パッケージツアー価格【台湾発】

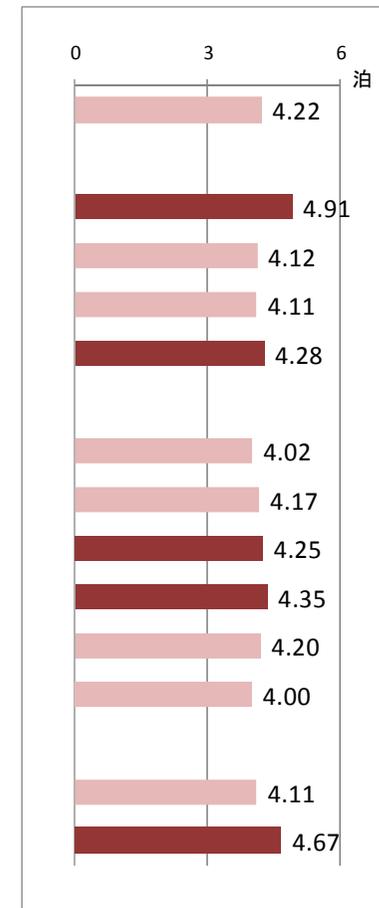
a. パッケージツアー日別平均価格



b. 1泊あたりツアー日別平均価格



c. 日別平均泊数



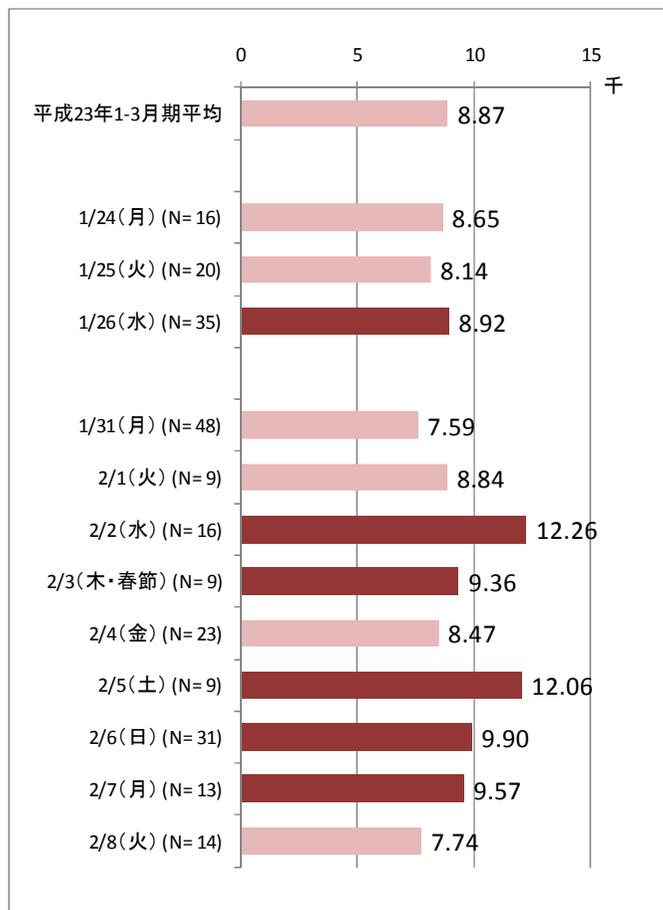
注1) 上記グラフは、台湾居住者かつ観光・レジャー目的来訪者かつパッケージツアーを利用した回答者を抽出して集計したもの。価格の単位は台湾ドル。
 注2) 上記グラフ中、赤色の棒グラフは平成23年1-3月期の平均より高いことを示す。なお、縦軸の日付は入国日であり、カッコ内のNはサンプル数である。

【春節期ツアー価格】中国発は2/7までツアー価格が高め

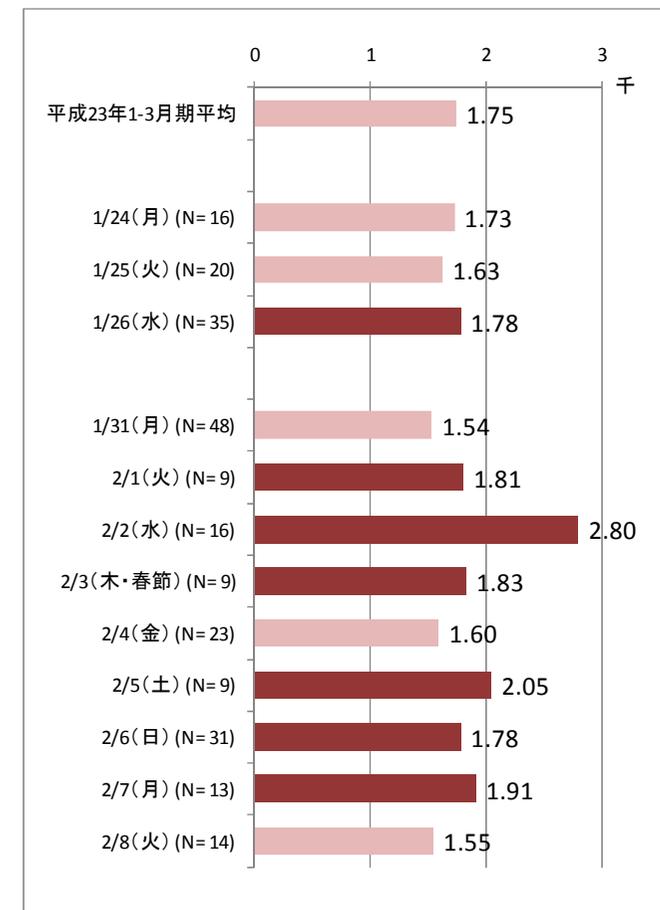
- 春節(2/3)の前日2/2から2/7までに入国するツアーの日別平均価格が**9000円以上**と高い(2/4を除く)。
- 1泊あたりのツアー平均価格をみると、2/1~7の期間中は期中平均に比べて高い(2/4を除く)。
- 日別平均泊数は、春節(2/3)から2/6までの4日間で期中平均に比べやや長い。

図表1-4. 春節期の訪日観光パッケージツアー価格【中国発】

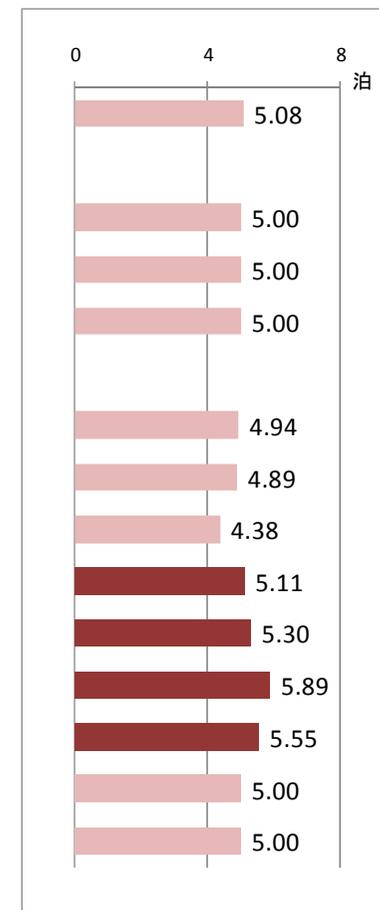
a. パッケージツアー日別平均価格



b. 1泊あたりツアー日別平均価格



c. 日別平均泊数



注1) 上記グラフは、中国居住者かつ観光・レジャー目的来訪者かつパッケージツアーを利用した回答者を抽出して集計したもの。価格の単位は人民元。
 注2) 上記グラフ中、赤色の棒グラフは平成23年1-3月期の平均より高いことを示す。なお、縦軸の日付は入国日であり、カッコ内のNはサンプル数である。

平成23年1-3月期

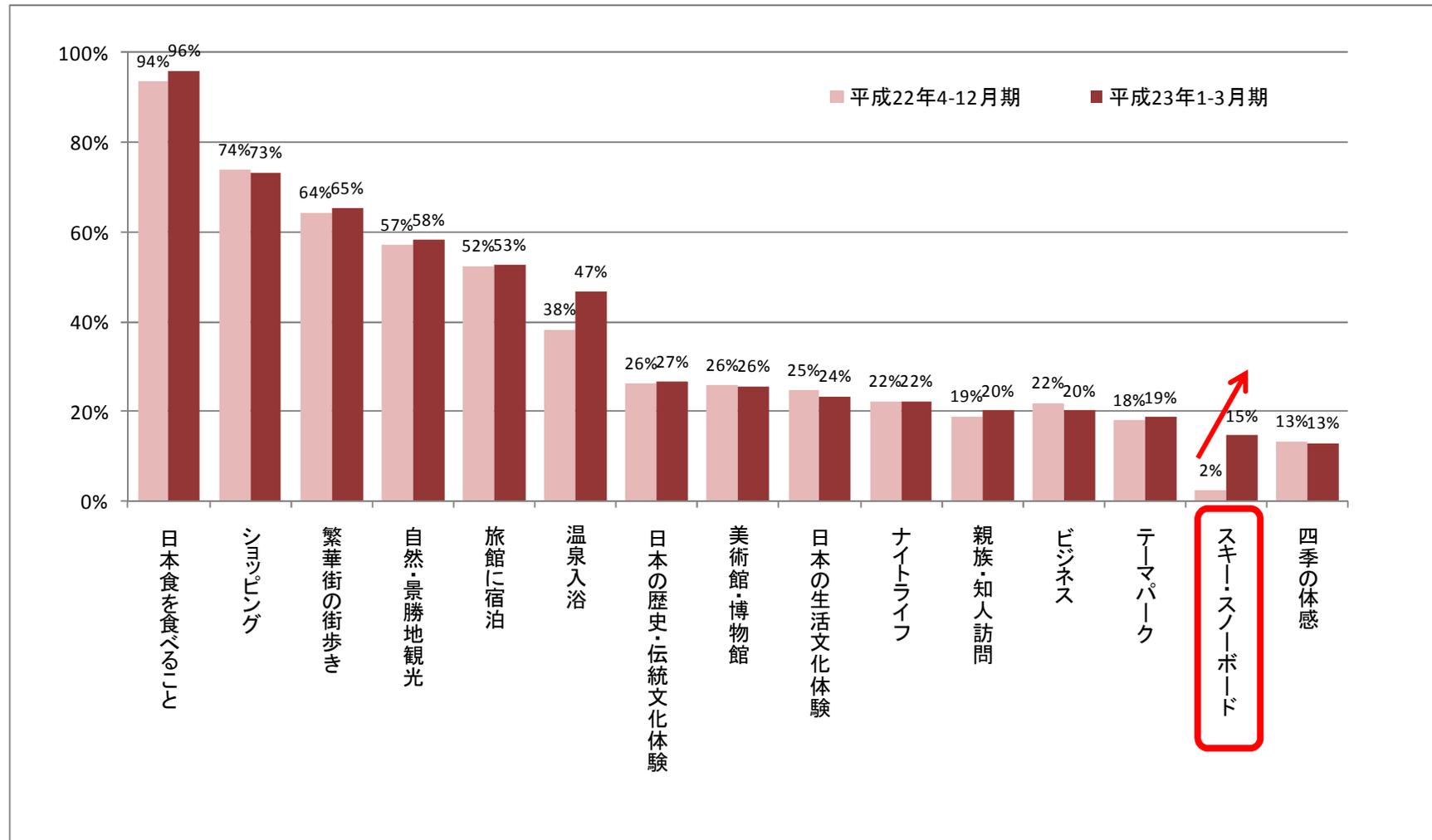
【トピックス2】

訪日スキー旅行動向 ～国籍別の特徴と消費動向

1-3月期は「スキー・スノーボード」をした旅行者が多い

- 1-3月期は、訪日旅行中に**スキー・スノーボード**をした旅行者の割合が他の期に比べて高い。

図表2-1. 今回の訪日旅行中に実施した活動（活動別の実施率）

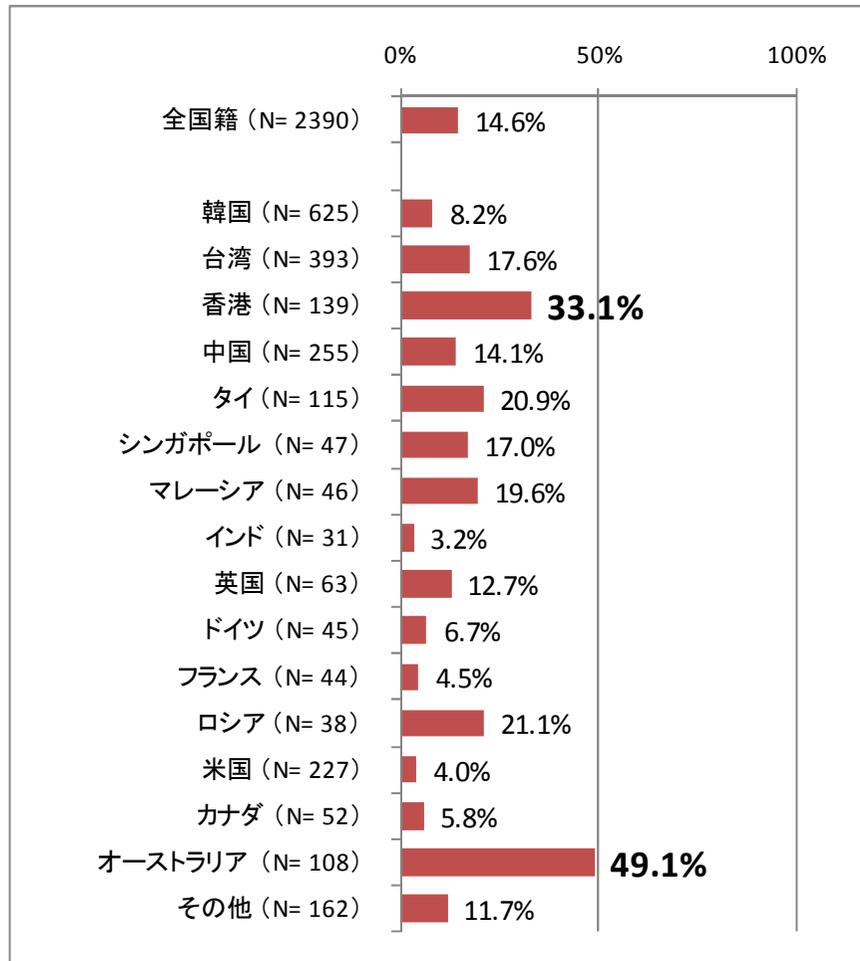


スキー・スノーボード実施率の高い国籍は「オーストラリア」と「香港」

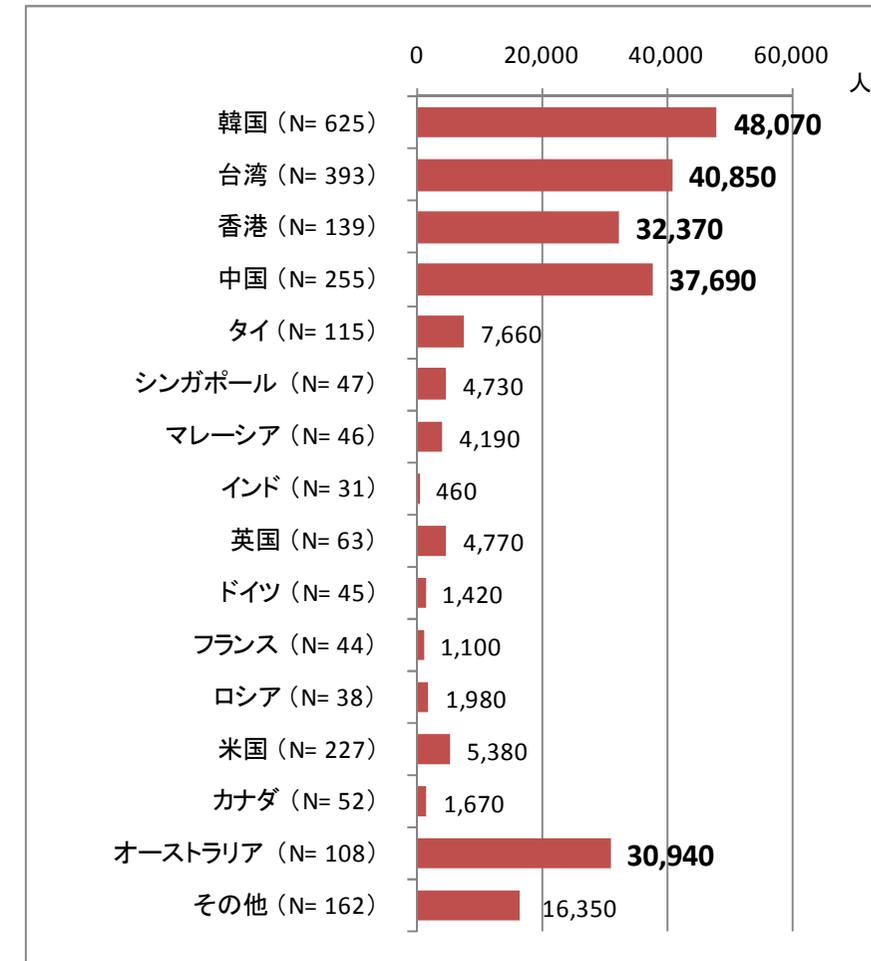
- JNTO訪日外客数と本調査結果を用いると、スキー・スノーボード客数はおよそ**24万人**と試算される。
- 国籍別にみると、実施率は**オーストラリア**と**香港**で高く、人数は**韓国・台湾・香港・中国・オーストラリア**が多い。

図表2-2. 国籍別にみる平成23年1-3月期のスキー・スノーボード実施率

a. 実施率



b. スキー・スノーボード客数の試算値※(概数)

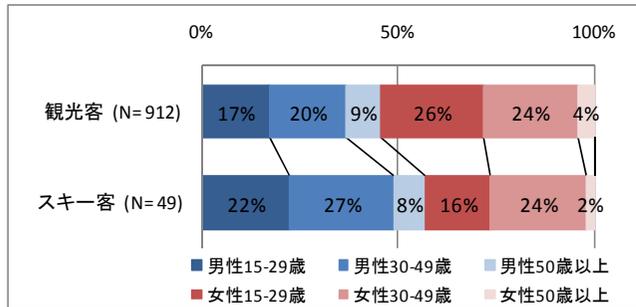


※推計式: スキー・スノーボード客数 = 訪日外客数(JNTO) × 実施率

【国籍別】韓国：日本の友人と一緒に 九州でスキーを楽しむ人も

図表2-3. スキー・スノーボード客層【韓国】

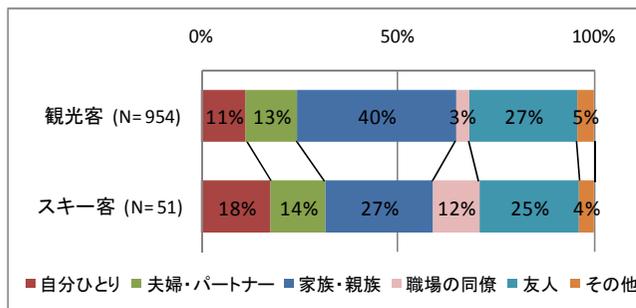
a. 性年代



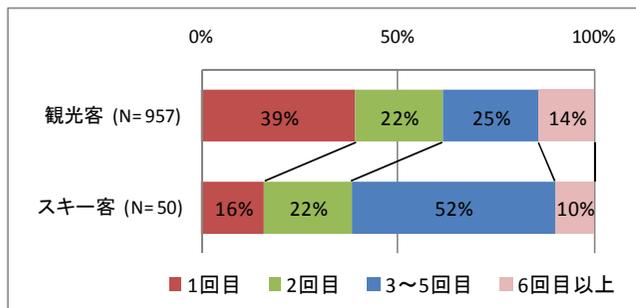
【韓国からのスキー・スノーボード客の特徴】

- 50歳未満の男性が多く、ひとり客も目立つ。訪日リピーター比率高い。
- 宿泊地は北海道が最も多い。東北や九州での宿泊も目立つ。具体的な地名では札幌が最多で、ニセコ、ルスツ、蔵王なども目立つ。
- スキーとともに「日本食を食べること」や「温泉入浴」を楽しむ人が多い。「親族・知人訪問」が多いのも韓国スキー客の特徴。

b. 同行者

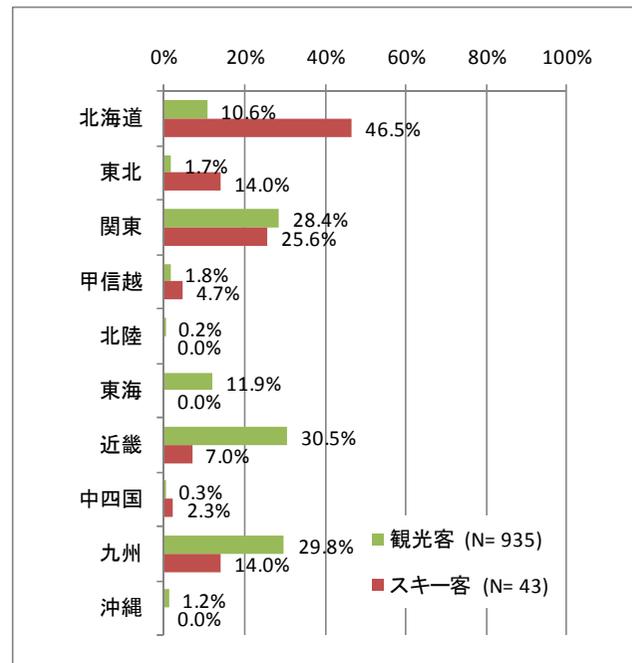


c. 日本への来訪回数

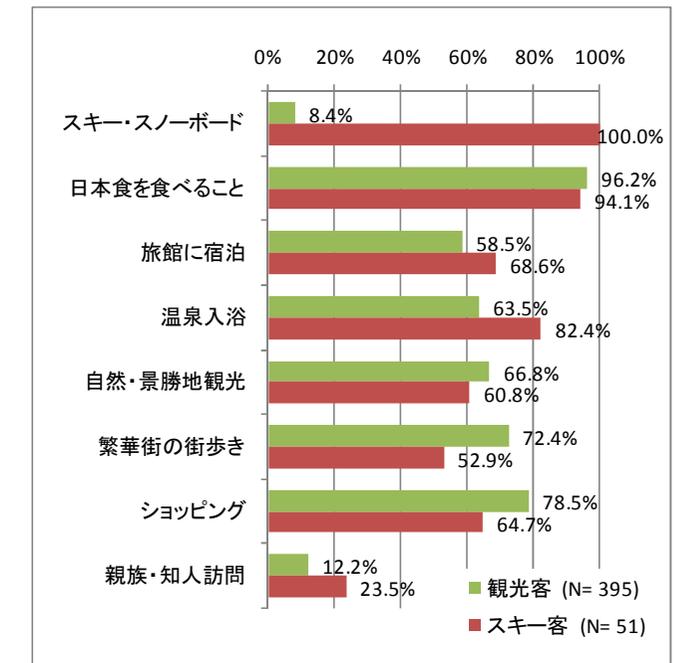


図表2-4. スキー・スノーボード客の旅行動向【韓国】

a. 宿泊地（複数回答）



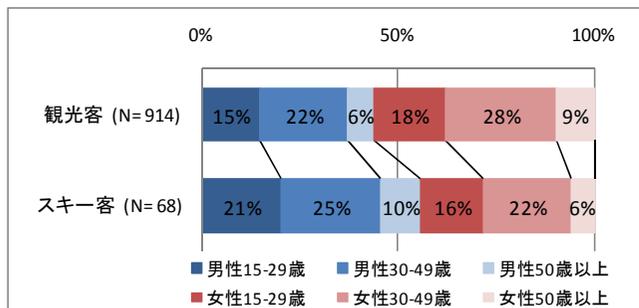
b. 旅行中の活動（複数回答）



【国籍別】台湾：家族客が半数 スキーと温泉をセットで楽しむ

図表2-5. スキー・スノーボード客層【台湾】

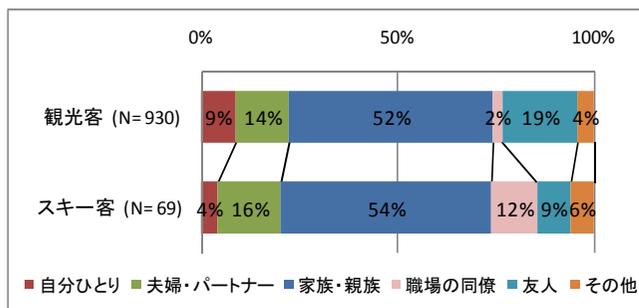
a. 性年代



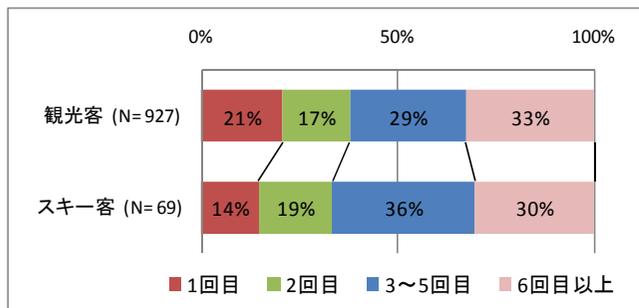
【台湾からのスキー・スノーボード客の特徴】

- 50歳未満の男性が多い。観光客同様、「家族・親族」旅行が5割強。
- 宿泊地は北海道が最も多い。関東での宿泊は観光客に比べて少ない。具体的な地名では札幌が最多で、十勝、蔵王、ニセコなども目立つ。
- スキーとともに「自然・景勝地観光」や「ショッピング」など幅広い活動を楽しむ。「温泉入浴」の割合が一般の観光客に比べて高い。

b. 同行者

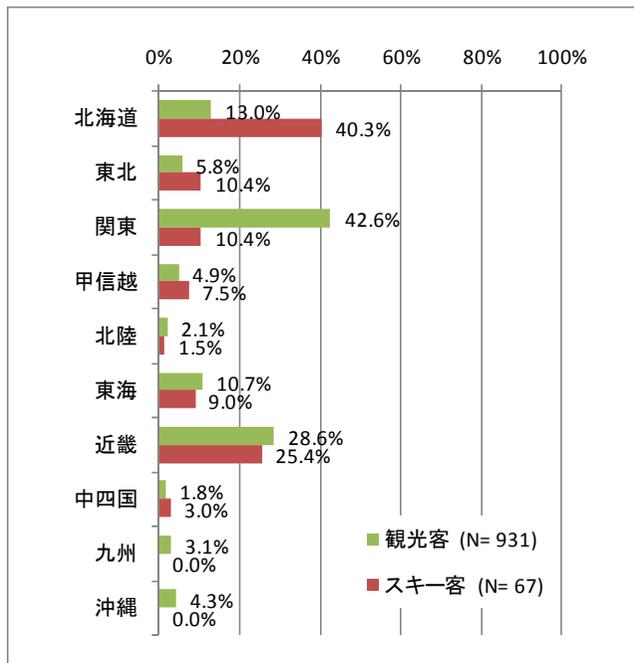


c. 日本への来訪回数

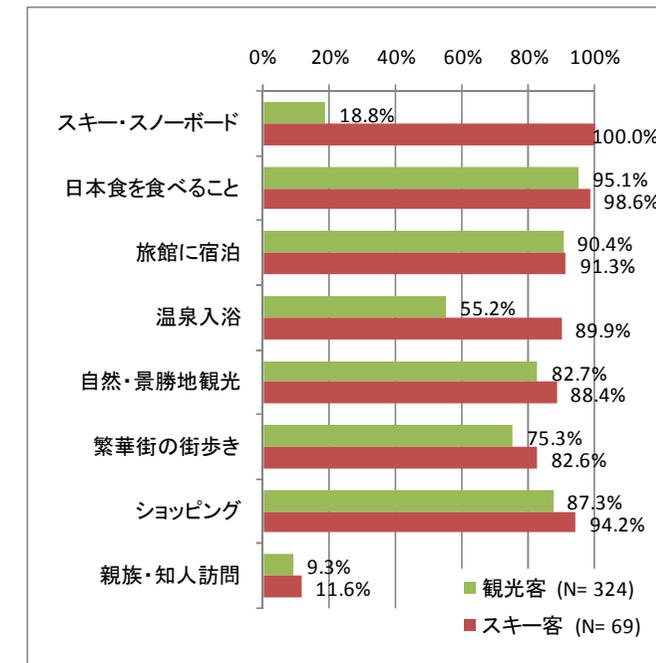


図表2-6. スキー・スノーボード客の旅行動向【台湾】

a. 宿泊地（複数回答）



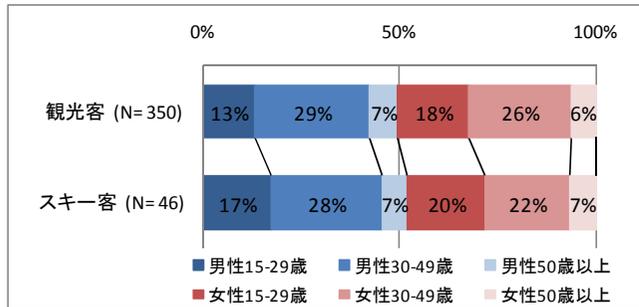
b. 旅行中の活動（複数回答）



【国籍別の特徴】香港：家族客が7割 北海道が圧倒的に人気

図表2-7. スキー・スノーボード客層【香港】

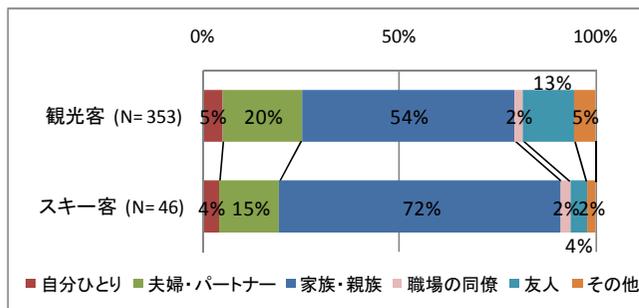
a. 性年代



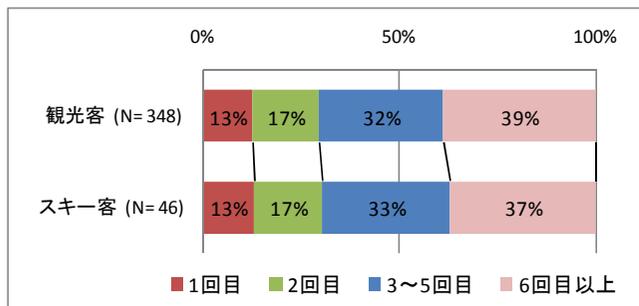
【香港からのスキー・スノーボード客の特徴】

- 観光客に比べ30歳未満の割合が多い。「家族・親族」旅行が7割。
- スキー客の実に8割が北海道に宿泊している。関東での宿泊は観光客に比べ少ない。具体的な地名では札幌、ニセコの順が多い。
- スキーとともに「自然・景勝地観光」や「ショッピング」など幅広い活動を楽しむ。「温泉入浴」の割合が一般の観光客に比べて高い。

b. 同行者

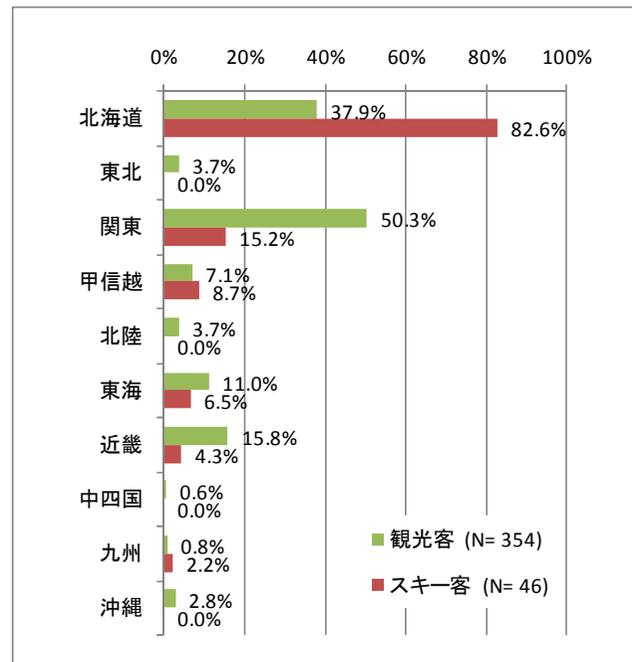


c. 日本への来訪回数

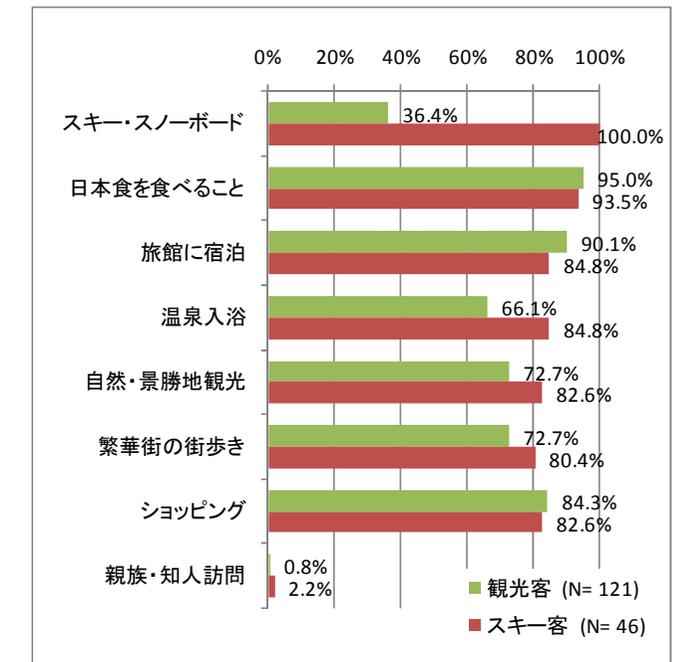


図表2-8. スキー・スノーボード客の旅行動向【香港】

a. 宿泊地（複数回答）



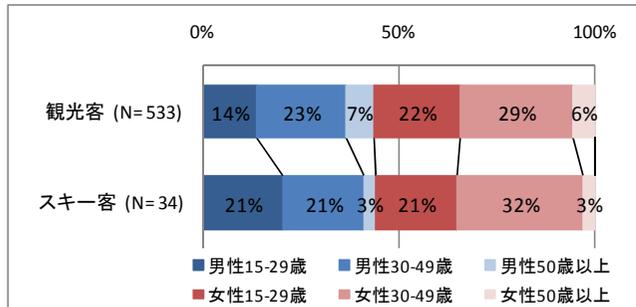
b. 旅行中の活動（複数回答）



【国籍別】中国：女性・初来訪者が多い 東京・大阪観光とセットで

図表2-9. スキー・スノーボード客層【中国】

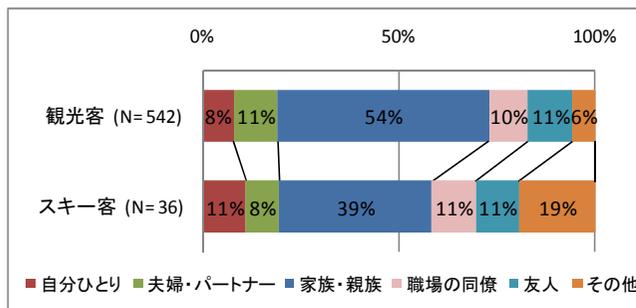
a. 性年代



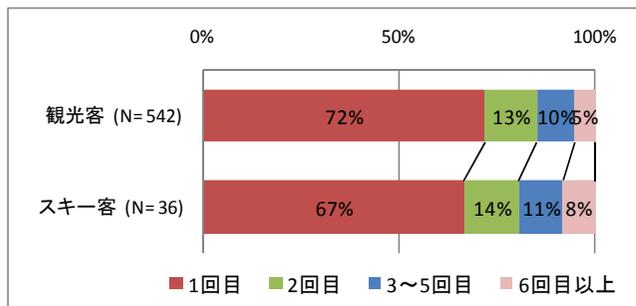
【中国からのスキー・スノーボード客の特徴】

- 女性の割合が高い。初めて日本を訪れた人が7割弱を占める。
- 宿泊地は北海道が多く、関東や近畿にも足を運ぶ人が目立つ。具体的な地名では札幌、東京、大阪の順が多い。
- スキーとともに「自然・景勝地観光」や「ショッピング」など幅広い活動を楽しむ。「親族・知人訪問」の比率も、観光客全般に比べると高い。

b. 同行者

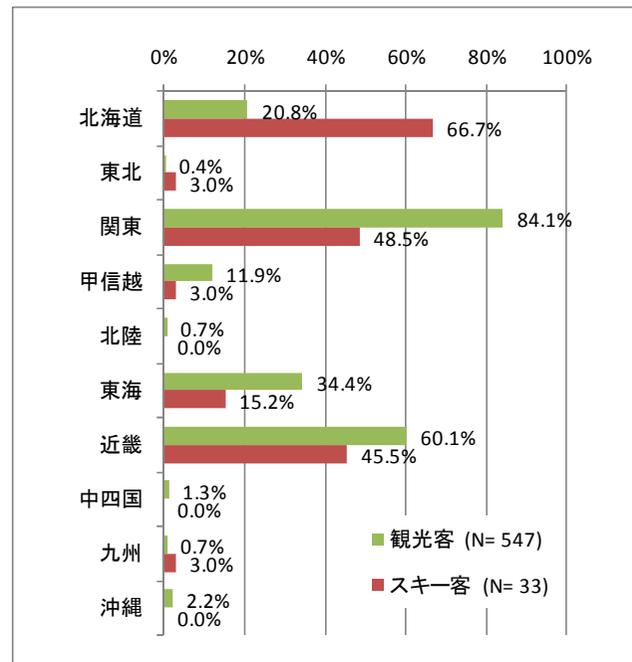


c. 日本への来訪回数

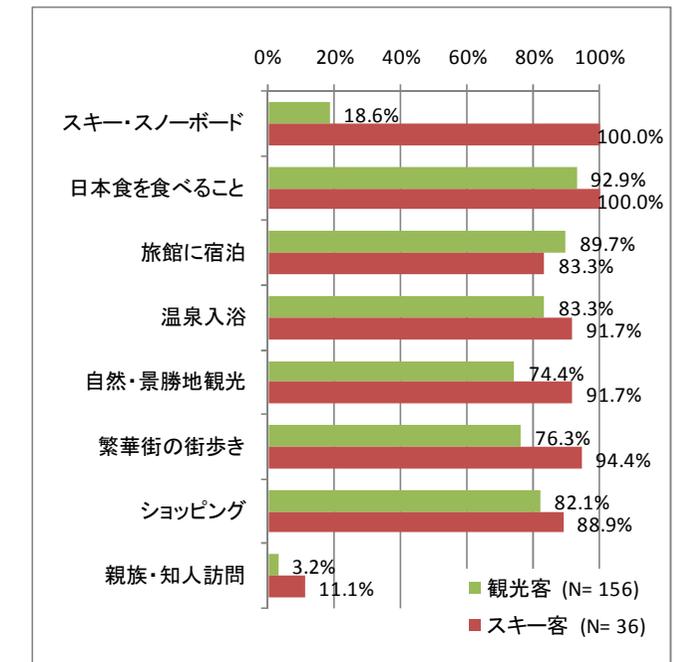


図表2-10. スキー・スノーボード客の旅行動向【中国】

a. 宿泊地（複数回答）



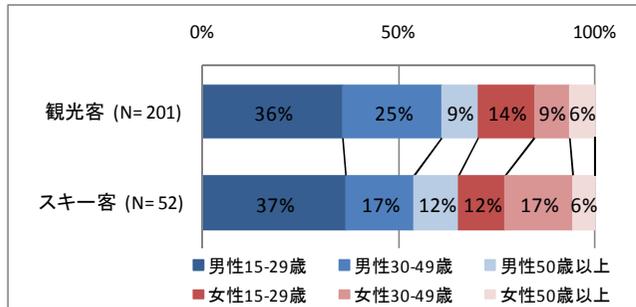
b. 旅行中の活動（複数回答）



【国籍別】オーストラリア：若年男性が多い ニセコ・白馬が人気

図表2-11. スキー・スノーボード客層【オーストラリア】

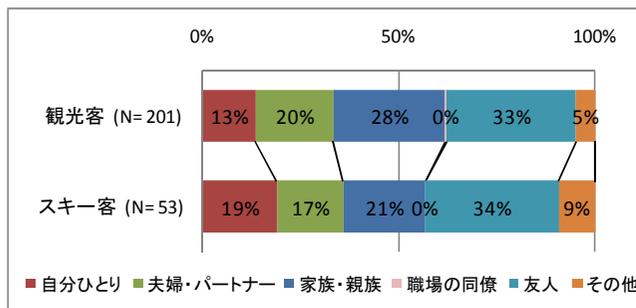
a. 性年代



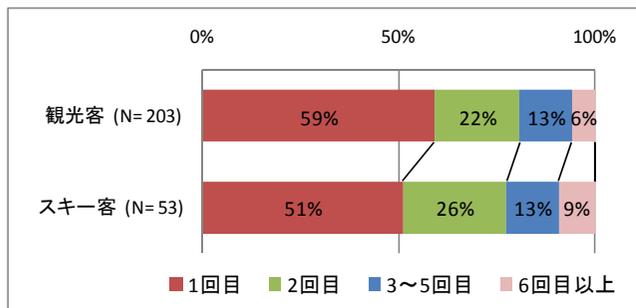
【オーストラリアからのスキー・スノーボード客の特徴】

- 男性30歳未満の割合が4割弱と高い。日本初来訪者が5割を占める。
- スキー客の6割が北海道に宿泊している。甲信越に宿泊した人の割合が他の国籍に比べ高い。具体的な地名ではニセコや白馬が目立つ。
- 観光客全般に比べると、スキー・スノーボード以外の活動実施率は全般的にやや少ない。「温泉入浴」の実施率は7割弱と高い。

b. 同行者

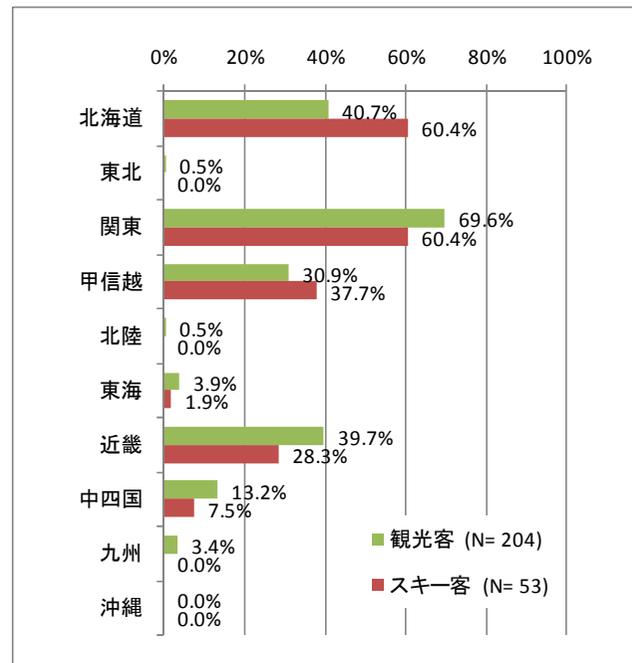


c. 日本への来訪回数

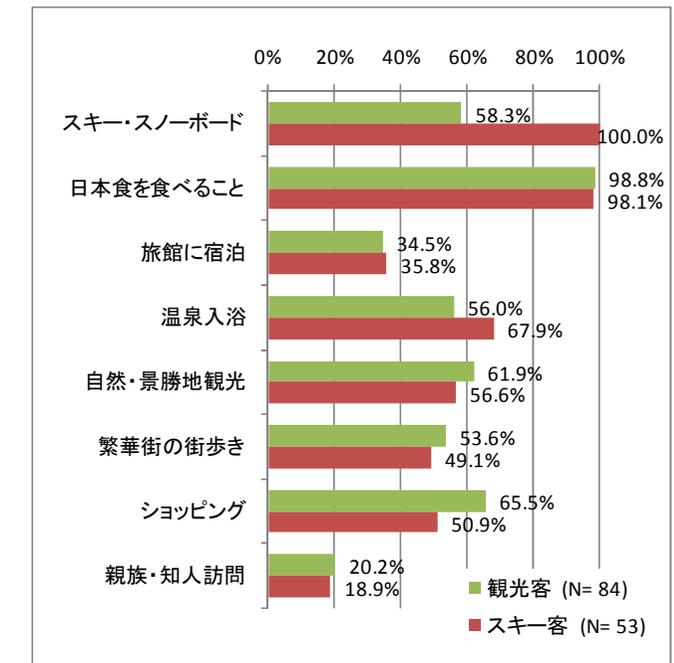


図表2-12. スキー・スノーボード客の旅行動向【オーストラリア】

a. 宿泊地（複数回答）



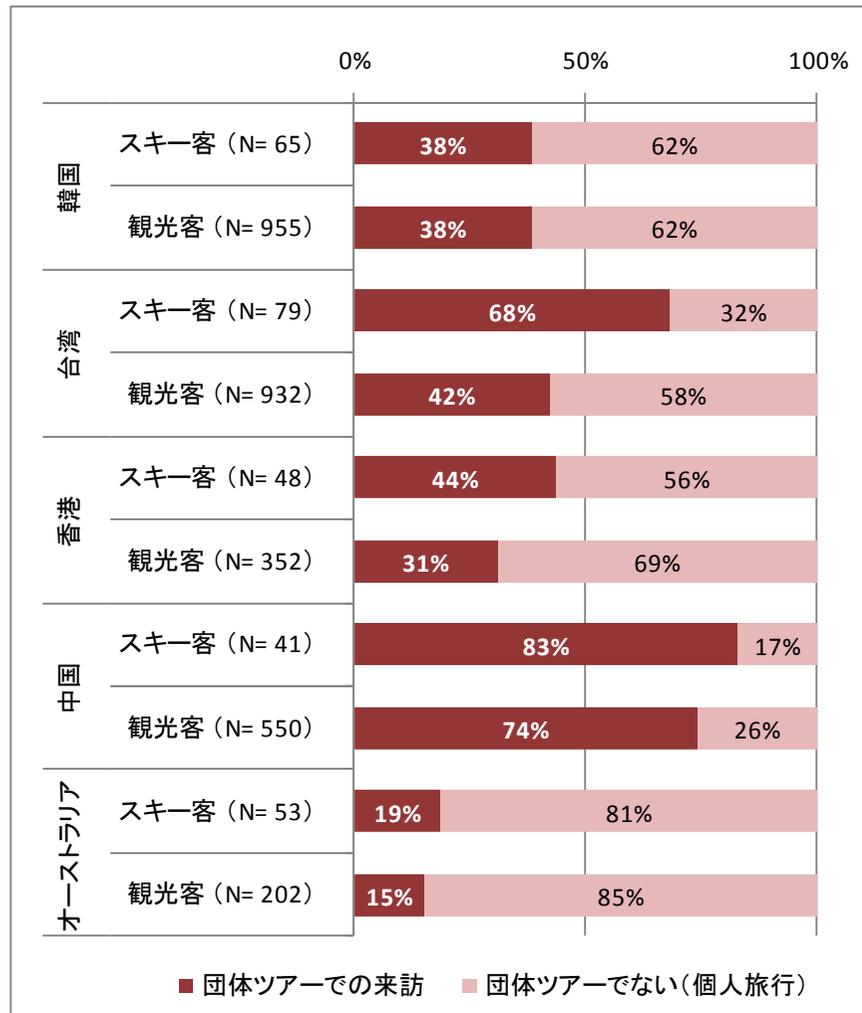
b. 旅行中の活動（複数回答）



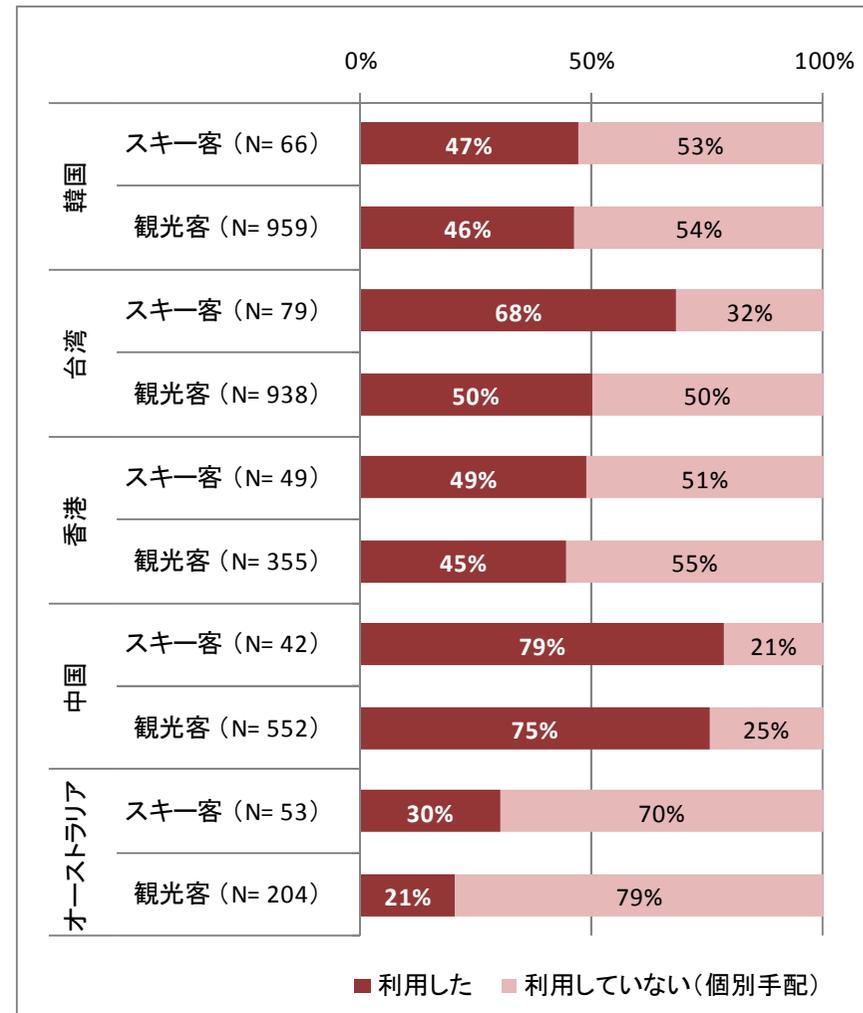
台湾や中国では団体客が多く、オーストラリアでは個人客が多い

- 台湾や中国では他国籍に比べスキー・スノーボード客の**団体割合が高く**、同国籍の観光客全般と比べても高い。
- オーストラリアでは他国籍に比べ同客の**団体割合が2割と低い**が、**パッケージツアー利用者は3割**を占める。

図表2-13. 旅行形態（団体または個人）



図表2-14. パッケージツアー利用状況

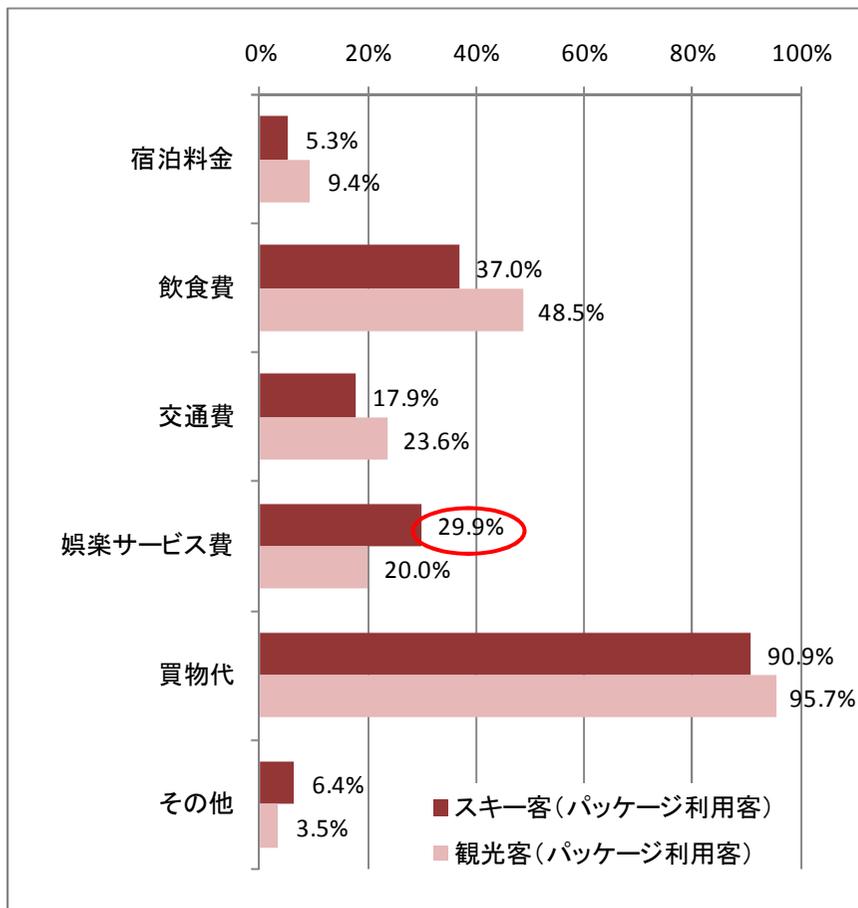


スキー客ではレンタル料など娯楽サービス費の支払が発生

- スキー・スノーボード客には、**レンタル料**を含む**娯楽サービス費**の支払いをしている人が多い。
- 娯楽サービス費以外の費目については、スキー・スノーボード客の費目別購入率は観光客に比べて低い傾向がある。

図表2-15. スキー・スノーボード客の費目別購入率（各費目の支払をした人の割合）【全国籍】

a. パッケージツアー利用客



b. 個別手配客

